

三島市の課題

●●●下

三島市三ツ谷新田で開業を目指す三ツ谷工業団地。市が推進する県の「内陸フロンティア」事業の一つだ。内陸フロンティアは2011年の東日本大震災での津波による甚大な被害を受け、内陸部の開発に焦点を当てた取り組みで、海に面していない三島市は県内最多の5事業を抱える。三ツ谷工業団地は最も早く動き出した重要事業。18年7月の開業を目指し、進出企業の募集や、県との都市計画変更手続などが進行している。

三ツ谷工業団地



市が作成した三ツ谷工業団地をPRする冊子

ハード事業の試金石に

働く場の開拓は、市にとって最重要課題だ。右肩上がりだった三島市の人口は05年度の11万

2800人をピークに減少に転じた。現在は11万8000人。国立社会保障人口問題研究所は28年

がほとんどという。働く場の創出は待たないが、三ツ谷工業団地の開発は平たんな道の

りではない。開発地の約20％は農地で、工業団地を造成するには都市計画の変更が必要。内陸フロンティアは国から総合特区の認定を受けているが、「岩盤規制」と呼ばれる農地転用の抜け道は用意されていない。

市は昨年度、地区計画を策定することで都市計画の変更を試みたが断念。土地区画整理事業に方針転換し、16年春の市街化区域編入を目指している。「この4年間はソフト事業に力を入れてきたが、次の4年間はハード事業が試される」（市幹部）。三ツ谷工業団地の成功は、絶好の試金石となる。

（三島支局・市川雄一が担当しました）

度には8万9千人と今より約2万2千人減ると推計する。全国的な少子高齢化に加え、学校卒業後の若い世代が地元に戻らないことが影響している。

「三島には名前にぴんとくる企業がない。都会で働きたいという思いも強い」。市内にキャンパスを持つ日大国際関係学部3年の八剣有紀さん（21）は首都圏での就職活動を予定している。周囲も、首都圏または実家のある県外を希望する学生

ある県外を希望する学生